

小倉山の森林再生に向けた事業計画

— 地域連携による持続的な森林景観づくりを目指して —

平成 25 年 4 月

京都市 都市計画局 都市景観部
風致保全課

目次

はじめに

第1章 全体計画	
1 事業概要	1
2 周辺地域からみる森林景観特性の把握	2
3 森林景観の地域性に着目した特性区分	3
4 歴史から振り返る森林環境の把握	4
5 植生分布の把握	5
6 森林環境の問題点の把握	6
7 森林景観の問題点の把握	7
8 森林環境・森林景観の問題点の把握（総括）	8
9 3つの森林の公益的価値に基づく整備エリアの検討	9
10 3つの森林の公益的価値に基づくゾーニング及び整備エリアの選定	10
11 京都市三山森林景観保全・再生ガイドラインに基づく「目標とする森林像」の分類	11
12 「具体的な目標とする森林像」を検討するためのポイントと整備の到達点	12
13 「具体的な目標とする森林像」	13
第2章 前期計画	
1 前期計画における整備エリアの検討	18
2 前期計画（5年間の年次計画）の検討	19
3 「整備をめぐす森林像」	20
第3章 地域連携による持続的な森林景観づくりを目指して	
1 互いに成果を共有できる地域連携手法案ー1	25
（1）年次計画と地域活動	26
（2）地域活動組織と市の役割分担	26
2 互いに成果を共有できる地域連携手法案ー2	27
参考文献	
ヒアリング調査及び事前会議から得られたこと	28
第1回・第2回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会（概要）	29
第3回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会（概要）	30
第1回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会で出された意見	31
第2回 小倉山の森林再生に向けた意見交換会で出された意見	32

あとがき

はじめに

小倉山は、嵐山とともに保津川（大堰川）の渓谷美と一体となる森林美を形成しています。また、山麓部には数々の寺院や名所旧跡が存在しており、「小倉百人一首」の撰集の舞台となり数々の詩歌に詠まれるなど、京都を代表する景観として歴史を刻んできました。

かつての小倉山は、マツや柴は、燃料として利用され、生活の山として人々の暮らしとの密接な結びつきによって形づくられた森林でした。

しかし現在、人との関わりが薄れ、森林に手が入らなくなった結果、「マツ枯れ」、「ナラ枯れ」、「シカの拡大」、「シカの食害による森林の更新不全」によって、景観面はもとより斜面防災、生物多様性の面においても多くの課題を抱えています。

小倉山を始め三山（東山、北山、西山の総称）の山々におけるこの様な森林の現状を踏まえ、本市では、市民やNPO、事業者等との協働による森林景観づくりを進めていくための指針となる「三山森林景観保全・再生ガイドライン」（平成23年5月）（以下、ガイドラインとします。）を策定しました。

ガイドラインに基づき、小倉山全体（約100ha）のうち、本市所有林（約55ha）を対象に森林再生の取り組みについてまとめたものが、この「小倉山の森林の再生に向けた事業計画」です。

本事業計画は、地域の方々との協働による森づくりを行うために、地元寺院や地域組織等の方々のご参加のもと「小倉山の森づくりを考える勉強会」、「小倉山森林再生事業に係る関係者会議」、「小倉山の森林再生に向けた意見交換会」（3回）を開催し、熱心なご議論を得て、今後10年間の事業計画を取りまとめました。

第1章『全体計画』では、小倉山の森林環境及び景観の問題点を踏まえ、森林の持つ3つの公益性（景観形成価値、斜面防災的価値、地域生態系保全的価値）の観点から整備エリアの抽出を行い、具体的な目標とする森林像を導き出し、第2章『前期計画』では、全体計画で抽出した整備エリアから、事業効果が極めて高いエリアや斜面防災上の整備の必要性が極めて高いエリアなどの抽出を行い、前期5年間の年次計画及び、整備を目指す森林像を導き出しています。また、第3章『地域連携による持続的な森づくりを目指す』では、地域と行政が一体となった協働による森づくりの手法を示しています。

なお、『後期計画』は、平成29年度に策定する予定です。

これから三山の山々の50年後、100年後を見据えた持続的な森林景観づくりを進めていくためには、市民やNPO、事業者、森林所有者などさまざまな主体と行政が、それぞれの立場においてできることを考え、互いに協力しあうことにより、持てる力を結集していく必要があります。

この小倉山においても、本事業計画に基づき、率先して本市所有林の森林再生に取り組みを通じて、今後、小倉山全域（約100ha）における地域の自主的な森づくり活動を活性化していきたいと考えています。



上空から小倉山（中央右）を望む



保津川から小倉山（右）を望む

～小倉山が詠まれた歌～

「小倉山峰のみみち葉こころあらば今ひとびの行華待たむ」

歌人 貞信公（藤原忠平）（拾遺集、十七、雑秋、小倉百人一首撰集）

「杜麗なく小倉の山すそ近みだたどりすむわが心かな」

歌人 西行法師 小倉百人一首（山家集、上、秋歌）

「わが庵は小倉の山の近ければ浮き世を鹿と鳴かぬ日ぞなき」

歌人 八条院高倉（新勅撰集、五、秋歌下）

「小倉山麓の里に籠り居て浮世のさがと嘆（嘆かな）」

歌人 飛鳥井雅有（隣女集、二）

「山里はみな冬がれて小勇鹿の音にぞ僅かに秋は残れる」

歌人 覚性法親王（出観集、秋歌）